

瀬戸内海研究フォーラム in 岡山 NOVEMBER

津波模型実験から見えてくること

流域と外洋をつなぐみち

-連動地震・津波災害について考える-

1. 趣 旨 :

東日本震災の「想定外はない」という教訓から、全国で津波への警戒が強まりつつあり、瀬戸内海も外洋からの津波に備えねばならない。特に、岡山は干拓地の軟弱さ、平坦地形による避難場所確保の困難さもあり決して油断のならない状況である。

本震災の前から地形と津波の問題に取り組んできたグループに津波模型実験と被災体験について発表して頂くとともに、防災・減災の問題について協議を行った。

2. 日程、場所：平成 24 年 11 月 12 日(月) 岡山大学環境理工学部

3. 主 催：岡山大学環境理工学部

企画協力：九州大学大学院工学研究院環境社会部門生態工学研究室

共 催：特定非営利活動法人里海づくり研究会議

後 援：岡山県

3. 参 加 者 :

岡山大学大学院 環境生命科学研究科	大久保賢治	教授
同	水藤 寛	教授
同	学 科 生	
九州大学大学院工学研究院環境社会部門	清野 聡子	准教授
岩手県立宮古工業高等学校 機械科	山野目 弘	実習教諭
同	生 徒	
岡山県 農林水産部 水産課	鳥井 正也	総括主幹
特定非営利活動法人里海づくり研究会議	奥田 節夫	理事長(京都大学名誉教授)
同	片山 了介	
有限会社 総合ビデオサウンド	土屋 康文	

4. 内 容 :

・実 演

津波模型実験：山野目 弘 実習教諭

・講 演

○津波模型実験からわかること 宮古工業高等学校 生徒

○瀬戸内海沿岸の潮汐と津波 大久保賢治 教授

○瀬戸内海における潮位と潮流の特性 水藤 寛 教授

・総合討論

コーディネーター：清野 聡子 准教授

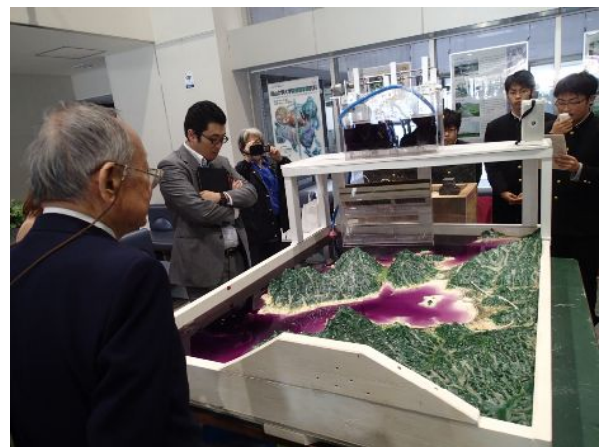
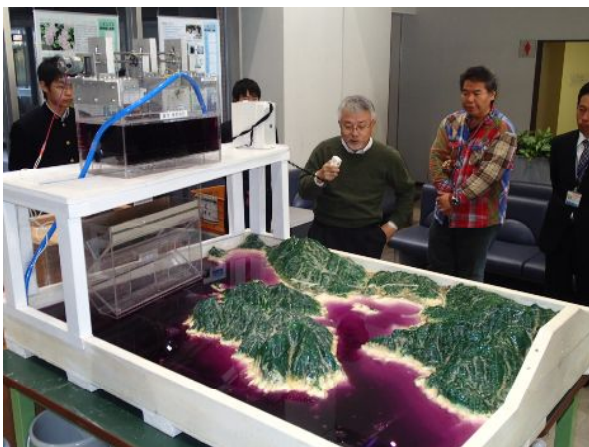
○ジオラマ模型は、一般市民が容易に想像できて内容が理解されやすい。

○コミュニティレベルの模型を地域の高校生が製作・実演・説明するからこそ住民や子どもへの理解も進みやすい。

○ジオラマによる実験と実測値によるシミュレーションとで比較すると結果に違う部分も出ると思うが、防災・減災の観点から実験は少々過大になっても良い。

○岡山県での津波被害は日生町において記録がある。津波よりも高潮被害が多く発生のメカニズムは異なる(津波は地表のずれ、高潮は低気圧)。

○高校生の中には被災に遭いながらも将来地域の造船所を継ぐことを考えているなど、地元の復興、津波防災への熱意は非常に高い。



模型実演の様子



セッションの様子